

沿岸技術研究センターとの思い出や これからの期待



AHN Hee-Do
安 熙道

韓国海洋科学技術院 (KIOST)
研究顧問

沿岸技術研究センター (CDIT) 創立40周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。韓国海洋科学技術院(KIOST)の顧問を務める安 熙道です。

この度、沿岸技術研究センターの機関誌に上記のテーマで執筆する機会をいただき、非常に光栄で嬉しい限りでございます。

私は、1979年に東京大学(院)を修了してすぐ国策研究機関の韓国海洋研究院 (KORDI) に入り、2009年12月に定年退職をするまでの31年間の勤務期間中、日本の研究機関との人材や学術交流の掛け橋の役割を果たしてまいりました。現在は韓国海洋科学技術院 (KORDIからKIOSTに改名) の研究顧問として活動しております。

私自身、30年以上の勤務期間中、まず最初に港湾技術研究所 (PHRI) と1994年に研究交流の協定 (MOU) を締結しており、続いて2009年10月にCDITとMOUを締結し、その年に両機関で「沿岸防災及び関連技術」をテーマにワークショップを開催し、研究交流の活性化を図りました。そのほかにも、CDITから発刊された多数の技術書を韓国語に訳して、韓国の港湾及び海岸工学者に新技術、新工法などを紹介してまいりました。

以下では、その間の両機関の交流ぶりを振りかえり、1) MOU締結文書、2) 第1回～第4回のワークショップのプログラム及び団体写真、3) 翻訳書発刊目録、4) 新聞報道及び懇親会の写真、5) 筆者のCDIT客員フェロー委嘱状などを紹介し、最後にCDITに期待する私見を述べさせていただきたいと思えます。

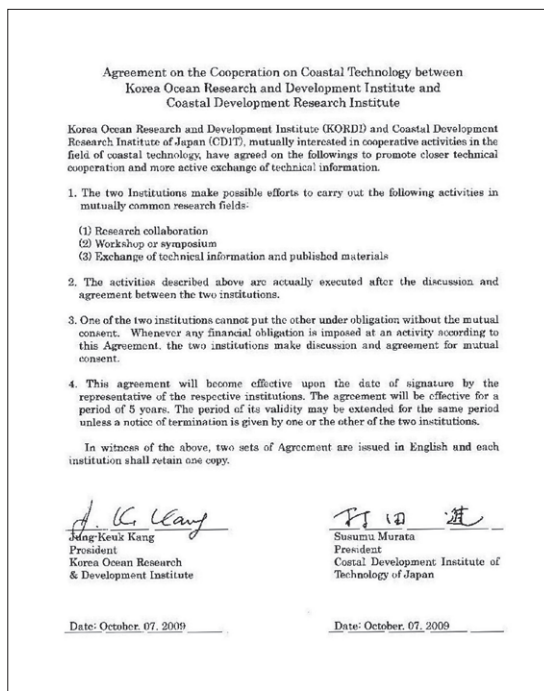
1. KORDI-CDIT 研究交流協定 (MOU) の締結

2009年 KORDI 庁舎にて、両機関の機関長 (CDIT 村田進氏) 間で締結された協定で、主な事項は次の通りです。

- ・研究交流 (共同研究の推進)
- ・ワークショップまたはシンポジウムの開催 (順次開催)
- ・技術情報の交換 (出版物の発刊)



KORDI & CDIT MOU締結 (2009年10月7日)



協定文書

2. KORDI-CDIT ワークショップの開催



第1回(2009年10月8日 釜山/Tsunami訳書の出版記念)



第2回(2010年11月17日 東京)



第3回(2011年10月11日 蔚珍/KORDI 東海研究所)



第4回(2012年11月7日 東京)
3.11東日本大震災の現場見学

第4回 日韓沿岸技術研究ワークショップ プログラム

開会挨拶	沿岸技術研究センター理事長 関田欣治
共催者挨拶	韓国海洋科学技術院院長 姜正極
基調講演	
「日本における海洋再生可能エネルギー開発の展望」 沿岸技術研究センター理事長 関田欣治	
セッション	
沿岸防災(1)	コーディネーター：CDIT 理事 山本修司 港湾内に立地する企業の事業継続の観点からみた津波対策 CDIT 研究主幹 廣松智樹 最大クラスの津波に対する防波堤の津波減災効果について CDIT 調査役 金正富雄 高潮浸水氾濫予測システムの運用と高潮災害防止施設の開発研究 KIOST 特性化研究本部長 沈載高
沿岸防災(2)	コーディネーター：KIOST 名誉研究委員 安熙道 東日本大震災を踏まえた GPS 波浪観測情報の利活用について CDIT 調査役 菊地洋二 東北地方太平洋沖地震時における防波堤による浸水低減効果検討 PARI アジア・太平洋沿岸防災研究センター研究官 廉慶善 数値モデリングを活用した津波防災対策 KIOST 研修研究員 河泰敏
沿岸管理	コーディネーター： PARI 海洋情報研究領域長 河合弘泰 地域住民が参画した別府港海岸における里浜づくり (北浜地区1、上人ヶ浜地区) CDIT 主任研究員 笹井剛 消波ブロック被覆堤ブロック下部の洗掘量の推定について 国土交通省関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所長 鈴木高二朗 韓国東海岸の浸食現況 KIOST 東海研究所長 朴賛弘
波浪解析	コーディネーター：KIOST 責任研究員 李光守 第三世代 COMEINS の開発 CDIT 調査役 岡田弘三 NOWPHAS が捉えた日本沿岸の波浪特性 PARI 海洋情報研究領域長 河合弘泰 最近韓国で発生した沿岸災害と今後の低減対策 KIOST 前任研究員 吳相坪
技術開発・普及	コーディネーター：CDIT 参与 高山知司 沿岸域および洋上の風力発電の実用化をめざした最近の活動状況 CDIT 客員研究員 永井紀彦 韓国でのサクシオンパイルの基礎の実証実験 KIOST 責任研究員 朴佑善 韓国における海上風力発電の現況 KIOST 責任研究員 李光守
閉会挨拶	沿岸技術研究センター専務理事 林洋介

第5回からは KORDI-PARI-CDIT-WAVE 共同ワークショップ
に変更して実施



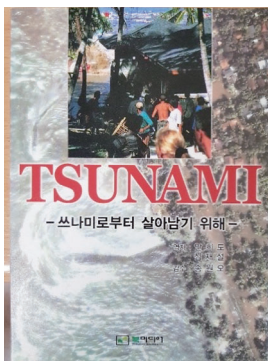
第1回韓日沿岸技術研究ワークショップ(2013年9月5日) 開会式

3. CDIT 刊行物の韓国語訳の発刊目録

- ・『波を測る』(2002) ・『潮位を測る』(2003)
- ・『波の観測と活用』(2013)
- ・『ジャケット工法 (Jacket Structure) 技術マニュアル』(2012)
- ・『洋上風力発電の技術マニュアル』(2011)
- ・『津波から生き延びるために』(2009)
- ・『津波からいのちを守るために』(2022)
- ・CDIT機関誌の寄稿文を韓国港湾協会 GPR (Global Port Report) 会誌に紹介



「波を観る」翻訳書発刊の協約式



『津波から生き延びるために』訳書



『津波からいのちを守るために』訳書

4. 新聞報道



港湾空港タイムス (2022年7月18日)

5. 懇親会の写真



CDIT 宮崎祥一 理事長と共に (2022年7月)



CDIT 元役員と共に (2009年2月)

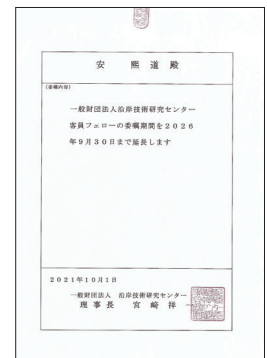


国土交通省 港湾局長 表敬(2012年11月8日)

6. 筆者の客員フェロー (第1次～第3次) 委嘱状



第1次



第3次

おわりに

CDITは1983年に創立され今年で40周年を迎えており、日本における港湾技術の発展に多大な貢献をしてきたことは疑いの余地がないと思います。

昨今の地球温暖化による気象変化や海面上昇、世界各地での山火事の多発など、環境破壊が進んで地球の環境問題に国際的な関心が高まる中、今日のIT社会の到来とともに、港湾施設の技術基準でブルーインフラの拡大が義務化されるなどの検討が行われております。

このような流れを踏まえて、港湾施設において、異常気象に対応した新たな技術や工法の開発が推進される必要があります。

CDITの今後の益々のご発展と繁栄を祈念して、結びの言葉とさせていただきます。